

## さが福祉サービス評価基準(福祉サービス別項目【特養版】)

評価項目	評価細目	判断基準	着眼点
A-1-(1)生活支援の基本	①利用者一人ひとりに応じた一日の過ごし方ができるよう工夫している。	a)利用者一人ひとりに応じた一日の過ごし方ができるよう工夫している。 b)利用者一人ひとりに応じた一日の過ごし方ができるよう工夫しているが、十分ではない。 c)利用者一人ひとりに応じた一日の過ごし方ができるよう工夫していない。	<input type="checkbox"/> 利用者の心身の状況と暮らしの意向等を把握・理解し、利用者一人ひとりに応じた生活となるよう支援している。 <input type="checkbox"/> 日々の支援において利用者の自立に配慮して援助を行うとともに、自立や活動参加への動機づけを行っている。 <input type="checkbox"/> 利用者の希望等を把握し、日中活動に反映するとともに、複数の活動メニューと社会参加に配慮したプログラムが実施されている。 <input type="checkbox"/> 利用者一人ひとりの生活と心身の状況に配慮し、日中活動に参加できるよう工夫している。 <input type="checkbox"/> 利用者が日常生活の中で、役割が持てるように工夫している。  <input type="checkbox"/> 利用者一人ひとりに応じた生活となっているかを検討し、改善する取組が組織的に継続して行われている。 <input type="checkbox"/> 利用者の心身の状況に合わせ、快適な生活のリズムが整えられるよう支援している。 <input type="checkbox"/> 利用者の生活の楽しみについて配慮と工夫を行っている。
	②利用者一人ひとりに応じたコミュニケーションを行っている。	a)利用者一人ひとりに応じたコミュニケーションを行っている。 b)利用者一人ひとりに応じたコミュニケーションを行っているが、十分ではない。 c)利用者一人ひとりに応じたコミュニケーションを行っていない。	<input type="checkbox"/> 利用者の思いや希望を十分に把握できるよう、日々の支援場面などさまざまな機会、方法によりコミュニケーションを行っている。 <input type="checkbox"/> 利用者の思いや希望を把握し、その内容を支援に活かしている。 <input type="checkbox"/> 利用者の尊厳に配慮した接し方や言葉づかいが徹底されている。 <input type="checkbox"/> コミュニケーションの方法や支援について、検討・見直しが定期的に行われている。 <input type="checkbox"/> 話すことや意思表示が困難であるなど配慮が必要な利用者には、個別の方法でコミュニケーションを行っている。 <input type="checkbox"/> 利用者が話したいことを話せる機会をつくっている。  <input type="checkbox"/> 会話の不足している利用者には特に気を配り、日常生活の各場面でも話をしてもらえようとしている。
A-1-(2)権利擁護	①利用者の権利侵害の防止等に関する取組みが徹底されている。	a)権利侵害の防止等に関する取組が徹底されている。	<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止等のために具体的な内容・事例を収集・提示して利用者に周知している。
		b) -	<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。

評価項目	評価細目	判断基準	着眼点
		c) 権利侵害の防止等に関する取組が十分ではない。	<input type="checkbox"/> 原則禁止される身体拘束を緊急やむを得ない場合に一時的に実施する際の具体的な手続と実施方法を明確に定め、職員に徹底している。 <input type="checkbox"/> 所管行政への虐待の届出・報告についての手順等を明確にしている。 <input type="checkbox"/> 権利侵害の防止等について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。 <input type="checkbox"/> 権利侵害が発生した場合に再発防止策等を検討し理解・実践する仕組みが明確化されている。
A-2-(1) 利用者の快適性への配慮	① 福祉施設・事業所の環境について、利用者の快適性に配慮している。	a) 福祉施設・事業所の環境について、利用者の快適性に配慮している。 b) 福祉施設・事業所の環境について、利用者の快適性に配慮しているが、十分ではない。 c) 福祉施設・事業所の環境について、利用者の快適性に配慮を行っていない。	<input type="checkbox"/> 福祉施設の環境は清潔で、適温と明るい雰囲気 が保たれている。 <input type="checkbox"/> 利用者にとって快適で、くつろいで過ごせる環境づくりの工夫を行っている。 <input type="checkbox"/> 環境について、利用者の意向等を把握する取組と改善の工夫を行っている。 <input type="checkbox"/> 利用者の意向やこれまでの生活を尊重した過ごし方ができるよう、居室の環境等に配慮し支援している。
A-3-(1) 利用者の状況に応じた支援	① 入浴支援を利用者の心身の状況に合わせて行っている。	a) 入浴支援を利用者の心身の状況に合わせて行っている。 b) 入浴支援を利用者の心身の状況に合わせて行っているが、十分ではない。 c) 入浴支援を利用者の心身の状況に合わせて行っていない。	<input type="checkbox"/> 利用者の心身の状況や意向を踏まえ、入浴形態や方法を検討・確認し、入浴支援(入浴介助、清拭、見守り、声かけ等)を行っている。 <input type="checkbox"/> 安全・快適に入浴するための取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 入浴の誘導や介助を行う際は、利用者の尊厳や感情(羞恥心)に配慮している。 <input type="checkbox"/> 入浴を拒否する利用者については、利用者の状況に合わせて対応を工夫している。

評価項目	評価細目	判断基準	着眼点
			<input type="checkbox"/> 入浴方法等について利用者の心身の状況に合わせ、検討と見直しを行っている。 <input type="checkbox"/> 入浴の可否の判断基準を明確にし、入浴前に健康チェックを行い、必要に応じて清拭等に代えるなどの対応をしている。 <input type="checkbox"/> 心身の状況や感染症、意向等を踏まえて入浴順の配慮を行っている。 <input type="checkbox"/> 利用者が自力で入浴できる場合でも、安全のための見守りを行っている。 <input type="checkbox"/> 利用者の心身の状況や意向に合わせた入浴形態・方法を実施するための浴槽、福祉用具等が用意されている。 <input type="checkbox"/> 利用者の健康状態等、必要に応じて、入浴日以外の日でも、入浴あるいはシャワー浴等ができる。 <input type="checkbox"/> 利用者の意向に応じて、入浴日を変更したり、入浴日以外の日でも、入浴あるいはシャワー浴等ができる。
	②排せつの支援を利用者の心身の状況に合わせて行っている。	a) 排せつの支援を利用者の心身の状況に合わせて行っている。 b) 排せつの支援を利用者の心身の状況に合わせて行っているが、十分ではない。 c) 排せつの支援を利用者の心身の状況に合わせて行っていない。	<input type="checkbox"/> 利用者の心身の状況や意向を踏まえ、排せつのための支援、配慮や工夫がなされている。 <input type="checkbox"/> 自然な排せつを促すための取組や配慮を行っている。 <input type="checkbox"/> トイレは、安全で快適に使用できるよう配慮している。 <input type="checkbox"/> 排せつの介助を行う際には、利用者の尊厳や感情(羞恥心)に配慮している。 <input type="checkbox"/> 排せつの介助を行う際には、介助を安全に実施するための取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 排せつの自立のための働きかけをしている。 <input type="checkbox"/> 必要に応じ、尿や便を観察し、健康状態の確認を行っている。 <input type="checkbox"/> 支援方法等について利用者の心身の状況に合わせて検討と見直しを行っている。 <input type="checkbox"/> 尿意・便意の訴えやおむつ交換の要望に対して、できる限り早く対応できるようにしている。

評価項目	評価細目	判断基準	着眼点
	③移動支援を利用者の心身の状況に合わせて行っている。	a) 移動支援を利用者の心身の状況に合わせて行っている。 b) 移動支援を利用者の心身の状況に合わせて行っているが、十分ではない。 c) 移動支援を利用者の心身の状況に合わせて行っていない。	<input type="checkbox"/> 利用者の心身の状況、意向を踏まえ、できるだけ自力で移動できるよう支援を行っている。 <input type="checkbox"/> 移動の自立に向けた働きかけをしている。 <input type="checkbox"/> 利用者の心身の状況に適した福祉機器や福祉用具が利用されている。 <input type="checkbox"/> 安全に移動の介助を実施するための取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 介助方法等について利用者の心身の状況に合わせて検討と見直しを行っている。 <input type="checkbox"/> 利用者が移動しやすい環境を整えている。 <input type="checkbox"/> 移動に介助が必要な利用者が移動を希望した際に、できる限り早く対応できるようにしている。
A-3-(2)食生活	①食事をおいしく食べられるよう工夫している。	a) 食事をおいしく食べられるよう工夫している。 b) 食事をおいしく食べられるよう工夫しているが、十分ではない。 c) 食事をおいしく食べられる工夫をしていない。	<input type="checkbox"/> 食事をおいしく、楽しく食べられるよう献立や提供方法を工夫している。 <input type="checkbox"/> 食事の環境と雰囲気づくりに配慮している。 <input type="checkbox"/> 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。 <input type="checkbox"/> 食事を選択できるよう工夫している。

評価項目	評価細目	判断基準	着眼点
	②食事の提供、支援を利用者の心身の状況に合わせて行っている。	<p>a) 食事の提供、支援を利用者の心身の状況に合わせて行っている。</p> <p>b) 食事の提供、支援を利用者の心身の状況に合わせて行っているが、十分ではない。</p> <p>c) 食事の提供、支援を利用者の心身の状況に合わせて行っていない。</p>	<p><input type="checkbox"/> 利用者の心身の状況、嚥下能力や栄養面に配慮した食事づくりと提供方法を工夫している。</p> <p><input type="checkbox"/> 利用者の食事のペースと心身の負担に配慮している。</p> <p><input type="checkbox"/> 利用者の心身の状況を適切に把握し、自分でできることは自分で行えるよう支援している。</p> <p><input type="checkbox"/> 経口での食事摂取を継続するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 誤嚥、窒息など食事中の事故発生の対応方法を確立し、日頃から確認、徹底している。</p> <p><input type="checkbox"/> 食事提供、支援・介助方法等について利用者の心身の状況に合わせ、検討と見直しを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 食事、水分の摂取量を把握し、食事への配慮、水分補給を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 利用者一人ひとりの栄養状態を把握し、栄養ケア計画を作成し、それに基づく栄養ケアマネジメントを実施している。</p>
	③利用者の状況に応じた口腔ケアを行っている。	<p>a) 利用者の状況に応じた口腔ケアを行っている。</p> <p>b) 利用者の状況に応じた口腔ケアを行っているが、十分ではない。</p> <p>c) 利用者の状況に応じた口腔ケアを行っていない。</p>	<p><input type="checkbox"/> 利用者が口腔機能の保持・改善に主体的に取り組むための支援を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員に対して、口腔ケアに関する研修を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 歯科医師、歯科衛生士の助言・指導を受けて、口腔状態及び咀嚼嚥下機能の定期的なチェックを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 利用者の口腔清掃の自立の程度を把握し、一人ひとりに応じた口腔ケアの計画を作成し、実施と評価・見直しを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 口腔機能を保持・改善するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 食後や就寝前に、利用者の状況に応じた口腔ケア及び口腔内のチェックが実施されている。</p>
A-3-(3)褥瘡発生予防・ケア	①褥瘡の発生予防・ケアを行っている。	<p>a) 褥瘡の発生予防・ケアを行っている。</p> <p>b) 褥瘡の発生予防・ケアを行っているが、十分ではない。</p> <p>c) 褥瘡の発生予防・ケアを行っていない。</p>	<p><input type="checkbox"/> 褥瘡対策のための指針を整備し、褥瘡の予防についての標準的な実施方法を確立し取組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について職員に周知徹底するための方策を講じている。</p> <p><input type="checkbox"/> 褥瘡予防対策の関係職員が連携して取組んでいる。</p>

評価項目	評価細目	判断基準	着眼点
			<input type="checkbox"/> 褥瘡発生後の治癒に向けたケアが行われている。 <input type="checkbox"/> 褥瘡ケアの最新の情報を収集し、日常のケアに取り入れている。 <input type="checkbox"/> 褥瘡を食事面から予防するために、利用者一人ひとりの食事の摂取状況の確認、栄養管理を行っている。
A-3-(4) 介護職員等による喀痰吸引・経管栄養	①介護職員等による喀痰吸引・経管栄養を実施するための体制を確立し、取組を行っている。	a) 介護職員等による喀痰吸引・経管栄養を実施するための体制を確立し取組を行っている。 b) 介護職員等による喀痰吸引・経管栄養を実施するための体制と取組が、十分ではない。 c) 介護職員等による喀痰吸引・経管栄養を実施するための体制が確立していない。	<input type="checkbox"/> 介護職員等による喀痰吸引・経管栄養の実施についての考え方(方針)と管理者の責任が明確であり、実施手順や個別の計画が策定されている。 <input type="checkbox"/> 喀痰吸引・経管栄養は、医師の指示にもとづく適切かつ安全な方法により行っている。 <input type="checkbox"/> 医師や看護師の指導・助言のもと安全管理体制が構築されている。 <input type="checkbox"/> 介護職員等の喀痰吸引・経管栄養に関する職員研修や職員の個別指導等を定期的に行っている。 <input type="checkbox"/> 介護職員等の喀痰吸引・経管栄養の研修の機会を確保し、実施体制の充実・強化をはかっている。
A-3-(5) 機能訓練、介護予防	①利用者の心身の状況に合わせ機能訓練や介護予防活動を行っている。	a) 利用者の心身の状況に合わせ機能訓練や介護予防活動を行っている。 b) 利用者の心身の状況に合わせ機能訓練や介護予防活動を行っているが、十分ではない。 c) 機能訓練や介護予防活動は行っていない。	<input type="checkbox"/> 利用者が生活の維持や介護予防に主体的に取り組むための支援を行っている。 <input type="checkbox"/> 利用者の状況に応じて、機能訓練や介護予防活動について、専門職の助言・指導を受けている。 <input type="checkbox"/> 日々の生活動作の中で、意図的な機能訓練や介護予防活動を行っている。 <input type="checkbox"/> 一人ひとりに応じた機能訓練や介護予防活動を計画的に行い、評価・見直しをしている。 <input type="checkbox"/> 判断能力の低下や認知症の症状の変化を早期発見し、医師・医療機関との連携など必要な対応を行っている。

評価項目	評価細目	判断基準	着眼点
A-3-(6) 認知症ケア	①認知症の状態に配慮したケアを行っている。	<p>a) 認知症の状態に配慮したケアを行っている。</p> <p>b) 認知症の状態に配慮したケアを行っているが、十分ではない。</p> <p>c) 認知症の状態に配慮したケアを行っていない。</p>	<p><input type="checkbox"/>利用者一人ひとりの日常生活能力や機能、生活歴について適切にアセスメントを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>あらゆる場面で、職員等は利用者に対して、支持的、受容的な関わり・態度を重視した援助を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>行動・心理症状(BPSD)がある利用者には、一定期間の観察と記録を行い、症状の改善に向けたケアや生活上の配慮を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>職員に対して、認知症の医療・ケア等について最新の知識・情報を得られるよう研修を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/>認知症の利用者が安心して落ち着ける環境づくりの工夫を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>利用者一人ひとりの症状に合わせ、個人あるいはグループで継続的に活動できるよう工夫している。</p> <p><input type="checkbox"/>医師及び看護師等の関係職員との連携のもと、行動・心理症状(BPSD)について分析を行い、支援内容を検討している。</p>
A-3-(7) 急変時の対応	①利用者の体調変化時に、迅速に対応するための手順を確立し、取り組みを行っている。	<p>a) 利用者の体調変化時に、迅速に対応するための手順を確立し、取組を行っている。</p> <p>b) 利用者の体調変化時に、迅速に対応するための手順を確立し、取組を行っているが、十分ではない。</p> <p>c) 利用者の体調変化時に、迅速に対応するための手順を確立していない。</p>	<p><input type="checkbox"/>利用者の体調変化に気づいた場合の対応手順、医師・医療機関との連携体制を確立し、取組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/>日々の利用者の健康確認と健康状態の記録を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>利用者の体調変化や異変の兆候に早く気づくための工夫をしている。</p> <p><input type="checkbox"/>職員に対して、高齢者の健康管理や病気、薬の効果や副作用等に関する研修を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/>体調変化時の対応について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。</p> <p><input type="checkbox"/>利用者の状況に応じて、職員が適切に服薬管理または服薬確認をしている。</p>